

警戒配備及び非常配備に関する要綱

改正：令和3年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、新潟市災害対策本部規程(平成4年新潟市災害対策本部規程第1号。以下「規程」という。)第16条並びに新潟市災害警戒本部運営要綱第6条第1項、第7条第2項及び第11条第1項の規定に基づき、職員の警戒配備及び非常配備について必要な事項を定めるものとする。

(警戒配備)

第2条 警戒配備の区分は、1号配備及び2号配備とし、基準及び体制並びに配備指令の発令者は、別表1のとおりとする。

2 警戒配備の対象部局及び人員は、別表2のとおりとする。

(非常配備)

第3条 非常配備の区分は、準3号配備、3号配備及び4号配備とし、基準及び体制並びに配備指令の発令者は、別表1のとおりとする。

2 非常配備の対象部局及び人員は、別表2のとおりとする。

(勤務時間外の自主参集)

第4条 職員は、勤務時間外に4号配備の配備基準に該当する事態が生じた場合は、配備指令を待つことなく、直ちに参集するものとする。

2 参集場所等については、別表3のとおりとする。

(配備状況の報告)

第5条 警戒配備及び非常配備の対象部局は、職員の配備状況について、適宜、任意の様式により危機管理監に報告するものとする。

(伝達系統図の作成)

第6条 危機管理監及び災害対策本部各対策部及び各区本部を総務する班の班長となる者は、配備指令を伝達するため、伝達系統図を作成し、勤務時間内外を問わず使用できる状態にしておかなければならない。

2 伝達系統図には、伝達相手の職・氏名・勤務場所電話、自宅電話等を掲載する。

3 災害対策本部各対策部及び各区本部を総務する班の班長となる者は、常に最新の内容の伝達系統図を作成しておき、その写しを危機管理監に提出するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、警戒配備及び非常配備に関し、必要な事項は別に定める。

(適用除外)

第8条 警戒配備及び非常配備に関し、消防局及び市民病院は別の定めにより行うものとする。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年2月18日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。(平成23年3月25日改正)

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。(平成23年4月1日改正)

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年7月17日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年1月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年6月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

別表1（第2条，第3条関係）

配備区分表

配備区分 (発令者)		配備基準	活動内容
警戒 本部	1号配備 (危機管理監)	1 市域内に震度4 ^{※1} の地震が発生した場合 2 気象業務法に基づく気象警報（大雨，暴風，暴風雪，大雪）が発表された場合 3 水防警報 ^{※2} 又は洪水予報 ^{※3} が発表された場合 4 台風や集中豪雨等により局地的散発的被害が発生した場合 5 その他危機管理監が必要と認める場合	1 必要な職員の配備 2 情報の収集・伝達及び処理 3 災害の発生が予想される地域への巡回及び広報 4 災害の警戒及び応急対策上必要な活動実施
	2号配備 (危機管理監)	1 台風や集中豪雨等により局地的散発的被害が発生し，更なる被害の拡大が見込まれる場合 2 県から土砂災害前ぶれ注意情報が発表された場合又は土砂災害前ぶれ注意情報の発表基準 ^{※4} を満たした場合 3 その他危機管理監が必要と認める場合	1号配備における活動に加え， 1 必要に応じた避難者の受入体制の確立 2 必要に応じた警戒出動及び応急活動の実施 3 必要に応じた広報体制の確立 4 避難情報発令の検討
災害 対策 本部	準3号配備 (市長)	1 河川の洪水災害に係る避難情報の発令が決定した場合 2 土砂災害に係る避難情報の発令が決定した場合 3 高潮災害に係る避難情報の発令が決定した場合 4 新潟県上中下越に津波注意報が発表された場合 5 気象業務法に基づく気象特別警報（大雨，暴風，暴風雪，大雪）が発表された場合 6 その他本部長が必要と認める場合	1 必要な職員を配備 2 情報の収集・伝達及び処理 3 避難者の受入れ 4 応急活動の実施 5 広報活動の実施 6 避難情報発令の周知
	3号配備 (市長)	1 市域内に震度5弱，5強 ^{※1} の地震が発生した場合 2 新潟県上中下越に津波警報が発表された場合 3 台風や集中豪雨等により甚大な被害が発生し，全市的な対応が必要な場合 4 その他本部長が必要と認める場合	1 必要な職員を配備 2 情報の収集・伝達及び処理 3 避難者の受入れ 4 応急活動の実施 5 広報活動の実施 6 避難情報発令の周知
	4号配備 (市長)	1 市域内に震度6弱 ^{※1} 以上の地震が発生した場合 2 新潟県上中下越に大津波警報が発表された場合 3 台風や集中豪雨等により市内全域にわたって被害が続発し，全市的な対応が必要な場合 4 その他本部長が必要と認める場合	1 全職員の配備 2 災害応急対策が最大限機能する体制の確立 3 班ごとの応急対策マニュアルに基づいた行動

※1 震度の判断については，新潟地方気象台が発表する「各地の震度に関する情報」に基づくものとする。ただし，通信回線の途絶等により認知できない場合は，気象庁の震度階級関連解説表に基づき，危機管理監が震度を推定するものとする。

※2 「水防警報」とは，水防法第16条の規定に基づき，北陸地方整備局信濃川下流河川事務所，阿賀野川河川事務所又は新潟県が発表するものをいう。

※3 「洪水予報」とは，水防法第10条及び11条の規定に基づき，新潟地方気象台が北陸地方整備局信濃川下流河川事務所，阿賀野川河川事務所又は新潟県と共同して発表するものをいう。

※4 「土砂災害前ぶれ注意情報の発表基準」とは，気象庁から「大雨警報（土砂災害）」が発表中に，新潟県土砂災害警戒情報システムのメッシュの色が黄，赤，ピンクいずれかになった場合をいう。

別表 3 (第 4 条関係)

勤務時間外の 4 号配備による職員の参集区分表

職員区分	参集要領	対 象 職 員
本部参集職員	災害対策本部に参集する。	○ 災害対策本部事務局員 ○ 対策部情報連絡員 ○ 協力部職員※
所属参集職員	所属又は所属長があらかじめ指定した場所に参集する。 ただし、交通の途絶、道路の損壊等により参集しがたい場合は、一時的に居住地の直近の区役所、出張所等に参集し災害対応を行う。	本部参集職員及び避難所指名職員を除く 全ての職員
避難所指名職員	指定された避難所に参集する。	地域に居住する職員の中からあらかじめ指名された職員

※初動としては、各協力部から 2 名が災害対策本部に参集する。それ以外の協力部職員については自所属に参集する。

その他、必要に応じて災害対策本部からの指示により、指定された場所に参集する。